

「新選組と会津」に関わる史跡を訪ねて

2022.8.27 高橋 眞

福島県立博物館で開催している「新選組展 2022」を見て、その足で会津にある新選組に関わる史跡を回りました。「新選組展」は、ボリュームが半端なく大きかったため、別途報告することとし、今回は会津にある新選組関連の史跡を中心にまとめてみました。

1. 天寧寺にある近藤勇の墓、土方歳三の墓（慰霊碑）

天寧寺は鶴ヶ城から東へ 2km ほど行った山の中腹にある。曹洞宗の古いお寺。お寺からは遠く西方の森に鶴ヶ城の天守が見える。（写真 1, 2 参照）



写真 1. 萬松山天寧寺



写真 2. 天寧寺から鶴ヶ城を望む

下の写真 3 は、墓地の入口にある「近藤勇之墓」の説明板。墓地へは少し山道を登るが写真 4 のように案内がいくつも出ていて、目的地へ導いてくれる。



写真 3. 「近藤勇之墓」説明板



写真 4. 「近藤勇之墓」への案内板

写真3の「近藤勇之墓」説明文には、近藤勇が板橋で首をはねられた後、「遺体は東京京三鷹市の龍源寺に埋葬されたが、首は京都の三条大橋下流にさらされた。しかし何者かが持ち去りこの地に埋めたと言われる」と書いてある。

案内板に沿って山道を登っていくと、近藤勇と土方歳三の墓が見えてくる。(写真5,6参照)お墓の前には今年植樹された血梅の苗。岡理事にいただいた「福島民報」の記事によると、「近藤は新選組の前身である浪士組として上洛する前に訪れた八王子市の庭にある梅をみて、そのかれんな姿にほれ込んだといわれている。父が郷土史家だった東京都日野市の自営業 谷享司さんが、近藤の墓前に血梅を植樹しようと企画した。」とのこと。今年6月12日に植樹祭が行われた。順調に育ってくれることを祈る。



写真5. 近藤勇の墓、植樹された血梅の苗



写真6. 近藤、土方の墓が並んで立っている

私は20年くらい前に一度ここを訪れたことがあるが、その時は土方の墓(慰霊碑)は木製で近藤の墓の右側にあった。(写真7参照。Webサイトより)最近新しくしたようだ。以前は「静かに佇んでいる」という感じだったが、訪れる人も増えたためか、周囲も整地されていた。写真5の血梅の立て札の手前に、写真8の近藤の辞世の句碑がある。できれば説明板がほしいと思った。「流山で捕えられた」ことを入れた内容にしてもらって。



写真7. Web 上にあった以前のお墓



写真8. 近藤勇辞世の句碑(日付:慶應四年四月四日)

尚、「流山」の地名は、ここで2カ所見つけることができる。まず、下の写真9 会津若松ライオンズクラブによる「近藤勇藤原昌宜之墓」の説明板に出てくる。鳥羽伏見の戦いから甲陽鎮撫隊の勝沼の戦いでの敗北の後「流山に集結していた」とある。尚、近藤の墓については「会津守護職の直属であった新選組隊長の首が松平容保公の居城の地に、副長土方歳三の手によって建墓された首塚と語り伝えられている」としている。



写真9. ライオンズクラブによる説明板

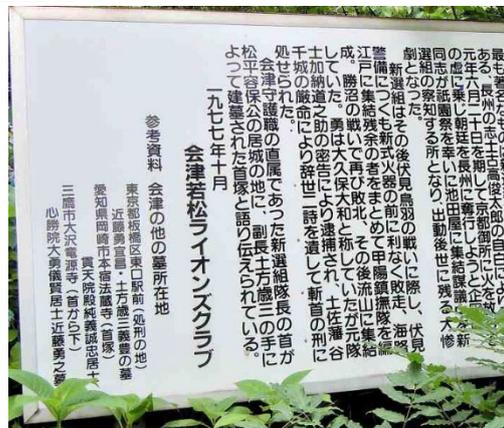


写真10. 「参考資料」の部分 (Webより)

写真9では、最後の「参考資料」が途切れてしまっているが、「会津の他の墓所在地」として、板橋、愛知県岡崎市、三鷹の竜源寺を紹介している。岡理事にいただいた資料によると、近藤の「首塚」説は会津以外に上記写真にもある岡崎とその他京都、さらに山形にもあるとのこと。(岡理事の「近藤勇の墓と首塚(訂1) 20183.13」による)

次に「流山」の文字があるのは、土方のお墓の側面の碑文。(写真11 参照)

「新選組副局長土方歳三義豊は流山で近藤に訣別し、会津に向かう。天寧寺に宿泊、近藤の斬首を知り、戒名の書写を松平容保公に依頼、此の地に墓標を建立し、のち北海道函館一本木附近にて被弾壮烈なる戦死をとぐ。」とある。近藤の墓の側面は写真12。



写真11. 土方の墓石側面



写真12. 近藤の墓石側面 (命日と俗名のみ)

2. 「新選組殉難地」如来堂

次に、斉藤一を隊長とする「会津新選組」が、新政府軍と激戦の末「全滅」したとされる如来堂を訪ねた。今は訪れる人も少ないのだろう、入口の看板は傾いて今にも倒れそう。「新選組殉難地」の石碑もひっそりと建っている。如来堂の写真は以下まとめて掲載。



写真 13. 如来堂入口の看板



写真 14. 「新選組殉難地」の石碑



写真 15. 如来堂全景



写真 16. 奥に八幡神社



写真 17. 如来堂説明板



写真 18. 「殉難碑」裏の碑文

写真 17 の如来堂説明板の全文は以下の通り。（頁数削減のため改行無し）

「慶應四年（1868）九月四日、山口次郎こと齊藤一ら新選組隊士が守備したここ如来堂が、新政府軍によって襲われ、隊士が全滅したとされる場所である。近藤勇亡き後、会津に入った土方歳三率いる新選組は母成峠防衛の任となるが、西軍の攻撃の前に敗退した。庄内へ援軍を求めて会津を離れようとする土方に対し、山口は会津藩主・松平容保への恩義から「今、落城せんとするのを見て、志を捨て去る、誠義にあらず」と、会津に残留して徹底抗戦を主張した。会津を去った土方とは対照的に、山口は二十名（十数名とも言われている）ばかりの隊士とともにこの地に宿陣していたが、西軍の襲撃を受けて全滅したとされている。しかし数名の隊士が乱戦のなかを脱出し、生存していた。ここ会津で隊長として新選組を率いた山口においては会津藩が降伏開城した後、藩士とともに斗南藩に移り、苦渋をともにしたのち、大正の世まで生き抜いたのであった。」

また、写真 18 の「新選組殉難地」の石碑の裏の碑文は以下の通り。（句読点は筆者）

「戊辰の役、会津に来援の新選組副隊長土方歳三ら百数十名は、白河口、母成口等で防戦につとめ、九月四日には、この如来堂の激戦で、隊長役山口次郎らが大いに戦い、十三名は、華と散った。」

この如来堂がある場所は、神指町といい鶴ヶ城からおよそ 5 km ほど北西の郊外にある。かつて上杉景勝が築いた神指城があった場所。現在、周囲は水田となっているが、当時の土塁の一部が今でも残っており、如来堂もその土塁の残りと思われる所に建っている。阿賀野川のほとりにあり、旧越後街道（現国道 49 号線）にも近く、交通の要所だったようだ。近くには、新政府軍に薙刀で立ち向かい、銃弾に斃れた中野竹子の「殉節碑」もある。会津戦争における戦いの場所の一つであったことがわかる。

3. 齊藤一の墓（阿弥陀寺）

次に、齊藤一の墓のある阿弥陀寺を訪ねた。阿弥陀寺はお城にも近い七日町にある。



写真 19. 阿弥陀寺入口



写真 20. 会津東軍墓地

阿弥陀寺の門を入るとすぐの所に「会津東軍墓地」がある。(写真20) 齊藤一(藤田五郎)の墓は、「東軍墓地」の裏のほうの一角にある。墓石は「藤田家之墓」、墓誌には「藤田五郎 大正四年九月二十八日」となっている。隣は時尾夫人(会津藩士高木小十郎の長女。鶴ヶ城の籠城戦では傷病者の看護にあたった。『八重の桜』の山本八重が男装して籠城戦に入る際、断髪を手伝った)、その隣に幼くして亡くなった齊藤一の初孫素子、一人置いて長男勉(陸軍幼年学校、士官学校卒 陸軍歩兵第65連隊(会津若松)所属)、その隣が長男勉の夫人みどり(山形県出身 東京女子高等師範学校卒。時尾夫人が寄宿舎の舎監を務めていて気に入り、結婚をすすめた。尚齊藤一も当時は庶務・会計係として同校に勤務していた)(以上、挿話は『新選組展2022 公式図録』による) 齊藤一の「戦後」は、家族にもめぐまれ幸せな日々を過ごしたのではなかろうか。



写真21. 齊藤一(藤田五郎)の墓



写真22. 墓誌

尚、「藤田五郎」の名前だが、お墓の前にある「新選組隊士齊藤一(藤田五郎)の墓」の説明板によると、齊藤一は「明治三年斗南へ移る際藤田五郎と改名」とある。『新選組展2022 公式図録』では、「齊藤一は、会津藩士藤田祐治の養子となっていた」とある(「旧会津藩人斗南北海道其他移住人別」の説明文より)

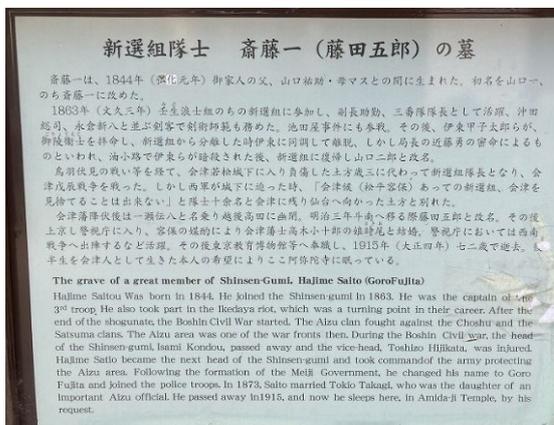


写真23. 齊藤一(藤田五郎)の墓説明板



写真24. 阿弥陀寺にある「御三階」

写真 24 は、阿弥陀寺にある「御三階」と呼ばれる建物。下の写真 25 の説明板にもあるようにこの建物は明治初年まで鶴ヶ城本丸にあったもので、密儀所に使用されていたとのこと。その他にも、大仏の台座だけがあったり、東軍墓地が何故ここにあるのか、なども含め、斉藤一の墓以外にも、興味をそそることがいくつかあるので、再度訪ねてみたいと思う。

尚、阿弥陀寺の近くには下の写真 26 「会津新選組記念館」もあったが、今回はパス。訪ねた方のブログによると、中には会津戦争で使用された洋式銃が数多く展示されているとのこと。山本八重が使用したのと同じ型の銃や会津軍、新選組が使用していた銃も数多く展示されているらしい。

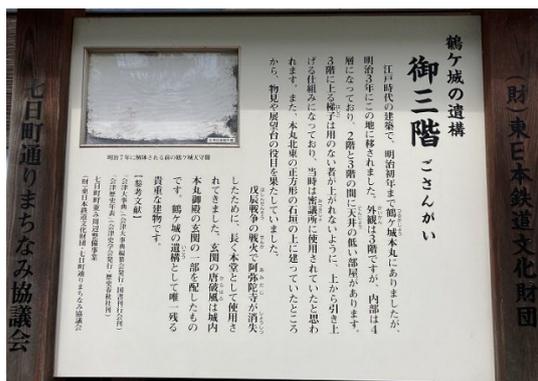


写真 25. 「御三階」の説明板



写真 26. 「会津新選組記念館」

4. 土方歳三が宿泊した清水屋旅館跡



写真 27. 清水屋旅館跡 (現大東銀行会津支店)



写真 28. 「清水屋旅館跡」説明板

写真 27 は、宇都宮城の攻防戦で負傷した土方歳三が傷の治療のために投宿した清水屋旅館の跡地。現在は銀行の建物になっており、当時を偲ぶものは何も残っていないが、この旅館跡地のある七日町通りには、白木屋漆器店など、かつての商家風の建物がいくつか残っており、多少の雰囲気は味わえる。(斉藤一の墓のある阿弥陀寺も七日町通り沿いにある)

写真 28 はその説明板。土方についての説明は以下。「新選組副長・土方歳三は宇都宮城の攻防で足を負傷し、会津田島を経て「清水屋」に運び込まれ治療を受けています。土方はその後、函館五稜郭まで転戦し、西軍と徹底的に戦い続けたのです。」

土方が宇都宮から会津に来たルートは、『新選組展 2022 公式図録』では「今市（現栃木県日光市）から会津西街道（下野街道）を通り、田島（現福島県南会津町）を經由して若松を目指した」となっている。ネット上では、この清水屋旅館で斉藤一らの新選組隊士と再会したとか、医師松本良順の治療を受けたとか、あれこれ書いてあるが史料までは確認していない。参考までに、「会津若松七日町通り」の観光案内サイトに載っていた清水屋旅館の写真は下記の写真 29 の通り。3 階建てだったようだ。

また、清水屋旅館跡の説明板にもあるように、この旅館には吉田松陰も宿泊しているようだ。説明文は以下。「幕末の志士たちに大きな影響を与えた吉田松陰は嘉永五年(1852)二十二歳の時に東北各藩を歴訪する大旅行をしており、中でも会津藩（藩校日新館）には特に強い関心を示し、二度にわたって訪れ見聞を広めています。松陰の旅の記録「東北遊日記」に記された七日町の宿がここ「清水屋」でした。」 『東北遊日記』の嘉永六年三月廿九日のところに「発七日町」とあり、東北旅行の帰りに再度訪れた時に「七日町」と記載している。前年の 12 月、江戸→松戸→水戸→白河→会津というルートで会津若松に入った時は、「宿若松」となっている。（『東北遊日記』（国立国会図書館デジタルコレクションより）（写真 30 参照）



写真 29. 清水屋旅館（撮影年不明）

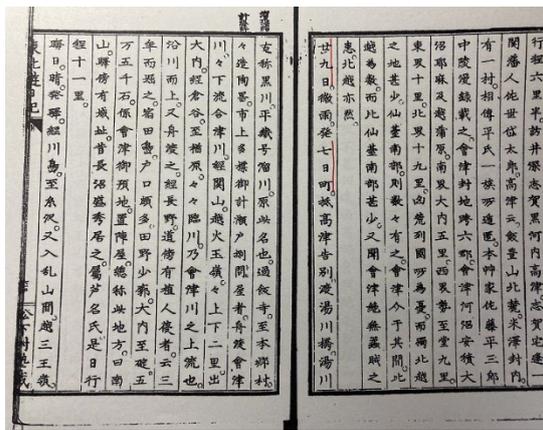


写真 30. 『東北遊日記』の「七日町」の記録

5. おわりに

以上、新選組と会津に関係する史跡をいくつか訪ねてみました。説明板の内容などについては私自身も本当？と疑問がわくものもあった。会員の皆さんも、それぞれ持論をお持ちの方も多くおられるかと思いますが、ここでは「会津ではこういう説明になっている」という事実の紹介にとどめました。

尚、新選組の関係以外にも会津にある西軍（新政府軍）墓地、野口英世記念館、猪苗代湖畔の十六橋とオランダ人技師ファン・ドールン像なども訪ねてきましたので、投稿したいと思っております。（『新選組展 2022』は次頁のチラシをご参照下さい）

新選組展 2022

— 史料から辿る足跡 —



福島県立博物館 令和4年度夏の企画展

金期 土 月祝
7/23 - 9/19

* 会期中に一覧展覧会を行います。
期間 7/23 - 8/21 / 8月23 - 9/19

会場 福島県立博物館 企画展示室 / 伊予園展示室 歴史・美術

観覧時間 9:30 - 17:00 * 入場は16:30まで

7/23 土 30 土
8/6 土 11 水・祝 12 金 13 土 27 土
9/3 土 10 土 17 土 18 日

* 企画展に限り、19:00まで観覧いただけます。入場は18:00まで。

休館日 月曜日、ただし9月19日(月・祝)は開館

観覧料 一般・大学生 1,300円(1,000円)、高校生 800円(640円)、中学生以下無料
()内は前売券及び20名以上の団体料金。企画料別途で常設展もご覧いただけます。

前売券販売場所 前売券販売期間：令和4年6月4日(土)～7月22日(金)

福島県立博物館、常陸風塵堂、産方アーク、会津交通株式会社、うすいプレイガイド、こまばり・みんなの文化センター

福島県立博物館、常陸風塵堂、産方アーク、会津交通株式会社、うすいプレイガイド、こまばり・みんなの文化センター

特別協力：「白河よみかき文化財館」(新選組のふるさと歴史館)

協力：一般財団法人会津若松観光ビューロー

後援：福島県、福島県教育委員会、会津若松市、白河市、福上の会津プロジェクト協議会、会津若松市ナイトタイムエコノミー推進協議会、会津の文化・地域振興プロジェクト協議会、福島県職工命題所連合会、福島県職工会連合会、会津若松商工企業所、福島テレビ、福島放送、テレビ東北一台、NHK福島放送局、おくしまFM、ラジオ福島、河北新報社、朝日新聞福島版、毎日新聞福島支局、産経新聞福島支局

福島県立博物館
企画展示室
(土曜日の休館)

この展覧会
新選組の足跡を
追って、その歴史を
たどります。

新選組の足跡を
追って、その歴史を
たどります。